

2026年1月19日

各 位

会社名 ユニソル株式会社

代表者名 代表取締役社長 古里 龍平

問合せ先 執行役員 管理本部 本部長 楠原 英之

(TEL. 06-6946-1600)

当社グループ社における廃棄パン耳の飼料利用に関する共同研究契約締結 に関するお知らせ

当社グループ会社であるアルプラス株式会社（以下、アルプラス）は、国立大学法人信州大学（以下、信州大学）、および戸田フーズ株式会社（以下、戸田フーズ）との間で、「廃棄パン耳の飼料利用に関する研究」（以下、本研究）を目的とした共同研究契約（以下、本契約）を締結しましたので、お知らせいたします。

記

1. 本研究の経緯

近年、食品ロスは国際社会において大きな問題となっており、その削減はSDGsの国際目標において、目標12「つくる責任 つかう責任」のターゲット12.3として「2030年までに、一人当たりの世界の食品ロスを半減させる」ことが掲げられています。日本においても、令和元年に「食品ロス削減推進法」が施行され、社会全体でフードロス削減への取り組みが推進されています。

アルプラスは、食品製造機械を中心に設計から製造、設置、アフターサポートまで一貫して対応する機械メーカーとして、食材の廃棄ロス問題に積極的に取り組んでおります。

戸田フーズは、アルプラス製パンスライサー等を用いたサンドイッチや、おむすび、パスタ等の食品類を製造し、主に大手コンビニエンスストアへ供給しております。

アルプラスは、戸田フーズと連携し、サンドイッチ製造工程で排出されるパン耳を有効活用するための検討を行ってまいりましたが、今般、信州大学の協力を得て牛の飼料としての利用に向けた共同研究を開始することとなりました。

2. 本研究の目的

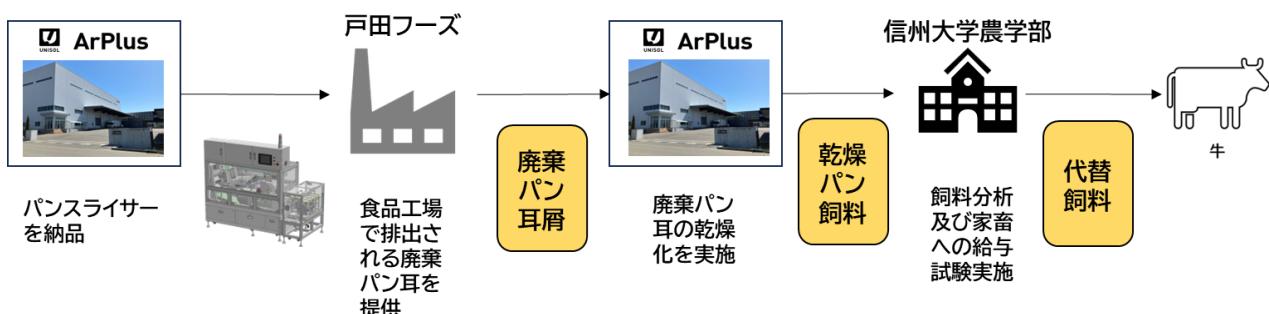
現在、牛の飼料は牧草や乾燥トウモロコシ等の穀物類が主流となっていますが、穀物類の多くは輸入に依存しており、価格・調達量が不安定な要因となっております。サンドイッチの製造工程で廃棄されるパン耳を飼料として再利用することが可能になれば、食品ロスの削減につながると共に、輸入穀物の代替として自給率の向上にも寄与することになります。

しかしながら、小麦を加工し消化しやすくなったパンの耳は、適切な方法で与えないと、本来、牛が有する微生物による消化機能に悪影響を与える可能性が高いと考えられており、最適な利用方法の確立に向けた飼料分析および家畜への給与試験等による「廃棄パン耳の飼料利用に関する研究」を行うこととなりました。

Release

(1) 研究題目	廃棄パン耳の飼料利用に関する研究
(2) 研究目的・内容	資源循環型社会の構築という観点から、食品加工の過程で排出される廃棄パン耳を飼料として有効利用するための実証データを得ることを目的とする。具体的には、飼料分析および家畜への給与試験を実施する
(3) 研究期間	2025年10月1日から2027年9月30日まで

■ イメージ図



以上

〈参考〉

■ アルプラスの概要

- | | |
|------------|---|
| (1) 名称 | アルプラス株式会社 |
| (2) 所在地 | 長野県伊那市西箕輪 7130-1 |
| (3) 代表者 | 代表取締役社長 丹羽 新六 |
| (4) 設立 | 1979年4月 |
| (5) 事業内容 | ・スライサー・カット機を主軸とした食品加工機械の開発・製造
・洋菓子小売店舗運営 |
| (6) ウェブサイト | https://www.arplus.co.jp/ |

■ 戸田フーズの概要

- | | |
|------------|--|
| (1) 名称 | 戸田フーズ株式会社 |
| (2) 所在地 | 埼玉県戸田市氷川町 3-7-8 |
| (3) 代表者 | 代表取締役社長 川本 学 |
| (4) 設立 | 1993年6月 |
| (5) 事業内容 | ・弁当類・おむすび類・寿司類の製造及び販売
・サンドイッチ類・ハンバーガー類の製造及び販売
・惣菜・その他の食品製造及び販売 |
| (6) ウェブサイト | https://todafoods.jp/ |

Release

■ 信州大学の概要

- | | |
|------------|---|
| (1) 名称 | 国立大学法人信州大学 |
| (2) 所在地 | 大学本部 長野県松本市旭 3-1-1
農学部 長野県上伊那郡南箕輪村 8304 |
| (3) 代表者 | 学長 中村 宗一郎 |
| (4) 設立 | 1949 年 5 月 |
| (5) ウェブサイト | https://www.shinshu-u.ac.jp/ |